

底堅い「衣」「食」

アパレル		専門店	
ファッションセンターしまむら	神戸に新品センターを計画 ●2009年度内	スポーツ用品 ゼット	千葉県に共同配送会社「ジャスプロ」設立 スポーツ用品共同配送会社 ●2009年4月 ●最低2000坪
衣料チェーン コックス	PB商品専用物流センターを拡張移転 SPA業態「IKKA」の業容拡大 ●2009年度内	スポーツ用品 アシックス	茨城県つくばみらい市に東日本エリアの物流拠点を新設 柏市から移転 ●2010年8月 ●11500坪
アパレルチェーン ポイント	茨城県茨城町の工業団地を取得し物流センター新設 茨城県笠間市から移転 ●2010年8月 ●5000~6000坪	無印良品 良品計画	新潟県中ノ島流通団地内の物流センターに店舗供給機能を増設 ●2009年6月 ●3500坪
洋服の青山 青山商事	千葉県流山市に24時間体制の物流センターを新設 ●2009年春	3PL事業者 センコー	千葉県船橋市に三越の通販事業を手がけるセンターを稼働 船橋ファッションロジスティクスセンター ●2009年7月 ●12000坪
ファッション業界大手 タキヒヨー	愛知県犬山市に大規模物流センターを計画 大和ハウス工業が開発、賃貸 ●2010年1月 ●13000坪		

スーパーマーケット		デパート	
愛知本社のスーパー ユニー	愛知県犬山市と大府市に常温物流センターを開設 7カ所を新規2カ所に集約 ●2009年3月 ●各6000坪	生協 コープ神戸	神戸市北区の新規施設に2カ所の共同購入センターを集約 共同購入センター北神戸 ●2009年4月
米大手スーパー コストコ	千葉県市川市のプロロジスパーク市川Iに入居 ●2009年3月 ●8500坪	生協 コープネット事業連合	千葉県印西市の松崎工業団地内に冷凍センターを開設 埼玉、千葉、茨城のコープ各店への配送センター ●2009年5月 ●9600坪
広島本社のスーパー ハローズ	岡山県早島町にハローズ早島物流センターを建設 ●2010年11月 ●20000坪弱	生協 日本生活共同組合連合会	広島県尾道市に流通センターを整備 需要を見つつ第二期工事も計画 ●2009年10月 ●11000坪
イオングループ マックスバリュ東海	静岡県袋井市に物流センター新設を計画 ●2010年度内	愛知県下商圏のスーパー アオキスーパー	愛知県弥富市に物流施設を集約し新センター開発のため 12000坪の土地をニッケより取得 ●2009年10月
3PL事業者 日立物流	佐賀県基山町にイオングループ向けの冷凍・冷蔵物流拠点を新設 プロロジスパーク基山のBTS ●2008年11月 ●7700坪	大手スーパー マルエツ	首都圏の商品センター設立プロジェクトを立ち上げ 首都圏に複数の新商品センターを開発する目的 ●2009年7月
		関東・関西商圏のスーパー ライフ	大阪市港区と堺市に京阪地区の物流センターを集約 ニチレイとロジスティクス・ネットワークが業務を受託 ●2009年9月、2010年2月 ●4100坪

コンビニ		ファミリーマートの物流子会社	
100円コンビニ 九丸プラス	愛知県春日井市と一宮市に中京地区の常温・低温センターを集約 ローソンとの関係強化により全国で物流再構築 ●2009年3月	ファミリーマートの物流子会社 ファミリーコーポレーション	加古川、金沢、福井に冷凍センター、諫早に定温センターを開設 ●2009年5月、6月
		ローソン マツモトキヨシ	業務提携により物流体制共同化 ●2009年8月

食品		キリンビバレッジ子会社	
食品大手 東洋水産	埼玉県日高市の埼玉工場内でチルド配送センターを増強 ●2010年5月 ●1700坪	キリン物流	神奈川県海老名市に湘南工場の配送拠点を新設 プロロジスパーク海老名のBTS ●2010年3月 ●10800坪
食品大手 日本ハム	鳥栖市に九州エリアの物流センター新設 グリーン・ロジスティクス・パーク鳥栖に建設 ●2009年2月 ●2700坪	味の素子会社 味の素物流	大阪市港区に大阪港低温物流センターを開設 ●2009年8月
東海商圏の酒類小売 酒ヤビッグ	神奈川県川崎市に東海圏に首都圏の冷凍冷蔵物流センターを新設 物流事業者のゼロが施設を開発し賃貸 ●2009年9月 ●3200坪	味の素物流	大阪市此花区に物流センターを新設 プロロジスパーク大阪IIに入居 ●2009年9月 ●1900坪
バルシステム連合会 愛食	東京都八王子市に冷凍食品専用の南大沢センター開設 相模、岩槻の拠点から移転、養食八王寺南大沢定温DCを併設 ●2009年3月 ●10000坪	冷凍食品大手 ニチレイ	宮城県岩沼市に物流センターを新設 プロロジスパーク岩沼Iに入居 ●2009年9月 ●2500坪
食品商社 国分	大阪府摂津市に関西低温センターを新設 ●2009年6月 ●630坪	冷凍食品大手 ニチレイ	大阪・北港と福岡・福岡港で物流センターを計画 ●2010年度内
食品卸 大光	埼玉県下川市に業務用食品SM・アミカ用物流センターを計画 関東出店計画に基づく物流拠点戦略	ニチレイ ロジスティクス・ネットワーク	埼玉県南埼玉郡に久喜低温物流センターを計画 ●2010年1月 ●1000坪
食品商社 尾家産業	大阪府摂津市に業務用食材向け物流センター新設 ●2009年度内	ニチレイ ロジスティクス・ネットワーク	栃木県河内郡に低温物流センター新設 ●2009年4月 ●2500坪
		ニチレイ 農業法人テナアップファーム	千葉県旭市に青果物流拠点・ベジポート旭センター開設 野菜の集出荷、加工、流通の複合型青果物流拠点施設 ●2009年6月 ●1000坪

「住」の物流ニーズ

不況下でも
積極的に物流戦略を展開する、
内需型企業の動向を探る

国内景気は最悪期を脱したと言われるものの、実際にモノが動き始めるのはまだまだ先の話。物流業界を取り巻く経営環境は、いまだ不透明感が拭い去れない。そんななか影を潜めた輸出型企業に変わり、昨今は個人消費に関連した内需型企業の動きが目立つようになってきた。今号の物流マーケット情報では、この底堅い内需型企業の物流拠点戦略を徹底検証する。

住

ホームセンター		家具	
近畿主力のホームセンター コーナン商事	横浜市に関東での店舗拡大を目指し物流センター新設 AMB鶴見ディストリビューションセンターに入居 ●2009年1月 ●5200坪	大和ハウスグループ ロイヤルホームセンター	柏市に関東物流センターを新設 マルチテナント型大型物流施設・ロジポート柏に入居 ●2009年10月
ネットスーパー 住友商事	食品・食材の加工・配送センター「住商ネットスーパー」開設 ●2009年10月	小売大手 イトーヨーカ堂	埼玉県南埼玉郡にネット通販向け物流施設を開設 ●2009年10月
ネット通販最大手 アマゾン・ドット・コム	大阪府堺市に関西初の物流センター設立 アマゾン堺フルフィルメントセンター ●2009年8月 ●20000坪	3PL事業者 ヤマトロジスティクス	大阪市住之江区に通販向け販売物流センターを開設 年内に全国7カ所でセンターを開設する計画 ●2009年3月 ●800坪
文具・オフィス関連用品 オフィス・デポ	千葉県市川市の大型物流施設・プロロジスパーク市川IIに入居 店舗販売から撤退し、2010年以降は通販事業に特化 ●2600坪	ネット通販発送代行 ネットロジスティクス	千葉県柏市で小規模通販専用EC物流センター開設 ネット通販アウトソーシングサービスを展開 ●2009年5月 ●150坪
医薬品		日用品雑貨製造卸	
中央物産	埼玉県久喜市に久喜ロジスティクスセンター新設 医薬品卸向けセンター ●2009年 ●8000坪	ツルハグループ	千葉県八千代市にツルハグループ関東物流センターを開設 ●2009年5月 ●5200坪
イーザイ子会社 イーザイ物流	岡山県真庭市に西日本エリアの物流を強化する新センター開設 ●2009年2月 ●1200坪	大洋薬品工業	北海道札幌市と佐賀県に物流センター開設 2010年度中には、関東、関西にも新センターを増設予定 ●2009年7月
医薬品卸 クラヤ三星堂	神奈川県厚木市に新物流センターを開設 ●2009年6月 ●1000坪	ニプロ	大阪市此花区に西日本地区3カ所の物流拠点を集約 プロロジスパーク大阪IIに入居 ●2010年1月
医薬品卸 成和産業	横浜市戸塚区にダイレクト配送の物流センター設立 神奈川IALC（エリア・ロジスティクス・センター） ●2009年8月 ●6200坪	医薬品卸 スズケン	神奈川県、千葉、福岡に新物流センターを計画 ●2010年度内
ゼリヤ新薬工業	広島県尾道市に中国地方を網羅する物流拠点を新設 アルフレッサHDグループの医療総合会社 ●2009年4月 ●4800坪	アルフレッサHD 小田島	岩手県花巻市の流通卸地内に物流センターを計画 ●2010年9月 ●3200坪
	鳥栖市に九州物流センターを開設 ●2009年7月	アルフレッサHD アルフレッサ	埼玉県新座市に物流センターを計画 ●2010年11月
			東京都府中市のココヨの社有地を購入、物流センターを計画 ●2010年度内
雑貨		日用品雑貨卸	
日用雑貨卸 あらた	神奈川県座間市に神奈川県内4拠点を集約し新物流センター開設 プロロジスパーク座間に入居 ●2009年夏 ●5300坪	バルタック	愛知県春日井市に大規模物流センターを計画 投資額は百億円規模、東海地方で同社最大規模になる見込み ●2010年度内
服飾雑貨 川辺	愛知県今治市に物流センターを開設 ●2009年9月 ●2000坪		北海道北広島市に大規模物流施設・RDC北海道を開設 ●2009年5月 ●11500坪
家庭用品卸 カワタキ コーポレーション	神奈川県座間市に物流センターを新設 ●1800坪	3PL事業者 ティーエルロジコム	岩手県花巻市にRDC東北流通加工工場を開設 東北エリアの化粧品、日用雑貨の流通加工・配送拠点 ●2010年1月 ●9600坪
			千葉県野田市に新センターを開設し生活雑貨向けサービスを展開 ●2009年3月 ●13000坪

景気低迷が及ぼす 内需型企業の物流ニーズの変化



シービー・リチャードエリス株式会社
 インダストリアル営業本部 企画推進部 企画推進グループ
 スペシャリスト **村田 恭平**

底堅い個人消費を背景に台頭する 「衣」「食」「住」の内需型産業

これまで、物流および物流施設における荷主の主役は、自動車や家電、電機メーカーなどの輸出型産業が担ってきました。特に07~08年にかけて新設された不動産投資家による大型物流施設においては、その傾向が顕著に表れていたといえるでしょう。しかし、ここ最近の景気低迷により、これらの産業が低迷期に入り、それに伴って各社の物流子会社はもちろん、同業界に特化して売上を伸ばしてきた物流業者も苦戦。特に09年上期における売り上げは軒並み減退を余儀なくされ、なかには対前年比2桁割れの企業も出てきています。

そして今日、これら輸出型産業に代わって物流ビジネスの荷主として台頭してきたのが「衣」「食」「住」関連の内需型産業。特に高級商材ではなく、廉価な輸入食品・雑貨・衣料品を扱う企業が牽引役となっています。これらの産業は生活に密着したものであり、景気の動向に左右されにくいという特徴があります。

これまで衣・食・住関連産業は、不動産投資家が建設する最新設備を完備した倉庫の荷主になり得ていませんでした。なぜなら、これらの産業は個人消費を対象としているため、賃料負担能力はそれほど高いとはいえません。一方、不動産投資家は、巨大かつ高機能な倉庫を開発し、メーカー系の価格の高い荷を入れて、高い賃料を払ってもらいたいと思っていました。こ

こにミスマッチがあったわけです。しかし先に述べたとおり、昨今、輸出型産業企業の賃料負担能力が低下してきたことから、投資家が賃貸条件を柔軟に対応し、積極的に衣食住系の企業を取り込むようになってきているのです。

また、こうした内需型産業は従来、消費地に近いところに倉庫を設けるのが一般的でした。しかし近年、以前と比べて立地へのこだわりは薄れてきているといえるでしょう。例えば、都心部に倉庫を持っていた旧来型のアパレル企業など、一時、都心部でマンション建設が活発になった際、そこを売却して立地的に都心から離れたところに物流施設を設ける動きが数多く見受けられました。これを可能にしたのが高速道路や一般主要道の整備など、以前と比べて都心へのアクセスが格段に便利になったことが挙げられます。また、通販関連の会社でもこうした動きは顕著で、即日配送を「売り」にしている会社は現在も消費地に近いところに施設を調達していますが、それ以外の会社は郊外に移転するケースが増えています。つまり企業が、それぞれの業態にあったベストなポジションを選択し始めているわけです。

加えて言えば、こうした内需型産業は、仕分けや値付けなどの細かい作業が多く、そのため100人規模のパートを確保・定着させることが事業継続に不可欠な要素です。その点からも、設備が新しくキレイな新築の物流センターへの潜在的なニーズを内在していたといえます。

施設選択の根底に、賃料が大きなウエ

イトを占めているのは事実ですが、これまでハイエンド施設に関係してこなかった企業群や業態群が、大型施設、最新施設も視野に入れて物件選定を行うようになったことは、物流マーケットの新潮流として特筆すべき点といえるでしょう。

コスト削減目的の郊外移転が 活発化するアパレル業界

ここまでは、内需型産業の総括的な動向をご説明してきました。ここからは「衣」「食」「住」それぞれの業界について検証してみましよう。

●アパレル

景気の低迷により、売れ筋が高級品から廉価品にシフトしたことに連動して、物流施設ニーズも大きく変化しています。かつて、高級品を扱う旧来型のメーカーは、都心に自前の倉庫を確保しているケースが多く見られました。しかし、こうした商品の売れ行きが鈍ってきたことから、賃料が安い郊外に移転する、あるいは3PL事業者アウトソーシングするケースが増えています。つまり、これまでは消費地に近い立地で自ら物流を手がけていたものが、今日では営業部隊は都心に置きつつ倉庫は郊外に移転、もしくは物流自体を外注するという傾向になっています。

また、カジュアル系メーカーにも郊外移転の傾向は見られます。ユニクロやABCマートなどは以前から物流業務をアウトソーシングしていましたが、こうした企業から委託された3PL事業者が積極的に施設

探しをしています。同様に、近年売れ行きが好調な企業には元々都心に倉庫を持っていないケースも多く、郊外立地の物流施設へのニーズが高まってきています。

言い換えれば、郊外でも対応できるほど都心へのアクセスが良くなったともいえますし、一方では、それだけコスト面の厳しさが如実になってきたともいえるでしょう。

このため、施設運営サイドや3PLサイドも、カジュアル系メーカーに対して積極的に営業を勧めているようです。

●スポーツ系専門店

少子高齢化の影響で、今後、継続的に売上の衰退が予想されるスポーツ系の専門店では、物流施設を刷新し、コスト削減を目的とした新拠点建設が目立っています。また、ゼットのように他社と共同で「ジャスプロ」という共同配送会社を設立するような動きもでてきました。スポーツ用品メーカーには特定用具専門のメーカーが多くあります。一方、その配送先である用品店は限られているため、メーカーが個別で配送するより、まとまっていくつもの商品を一括で配送できる仕組みにすることで、効率化とコスト削減が同時にできるという大きなメリットがあります。

●デパート

近年のデパートにおける物流は、売上の優劣によりその戦略が明確になっています。売上が上昇しているデパートは、拡張に対応できるような施設構成を目指しています。一方、何割かの企業は売上ダウンを見越してコスト削減を実現するための拠点の再編を進めている状況です。

近年の合併や統合により、物流子会社の売却や、それに伴うアウトソーシングを進めているところもあります。

小売は、メーカーと比べて新陳代謝が激しく、主役も百貨店からスーパーやコンビニへと交代しています。そのため、全体としての荷量は同等でも、プレーヤーの顔ぶれが替わるとともに、施設も変化しています。特にアパレルは、3PL事業者へ委託したほうがコストダウンしやすく、しかも冷蔵設備が必要な食品のように施設に多

額な設備投資を必要としないため、一括で委託しやすいという特徴があるといえるでしょう。

地価下落を起爆剤に 専用センター建設を進める食品業界

●スーパーマーケット

スーパー業界で現在、売上を伸ばしているのは中堅以上の規模を持つ企業ですが、近年では値引き競争が激しく、客数が増えても思うように売上が伸びない状態が続いています。とはいえ、在庫を絶やすことはビジネスチャンスの喪失に直結するため、品数の確保とコスト削減の双方を見据えた拠点の見直しが進んでいます。

食品に関して特徴的なのは冷蔵設備が不可欠であることです。しかし、冷蔵設備を設置すると、上部階に結露が発生する、必要な電気容量が大きい、さらには集積、配送のトラックの時間が集中するので駐車スペースを大きく確保する必要があるといった課題があります。そのため、不動産投資家が建設した既存の施設を、そのまま利用することができないケースが多いのです。そこで、スーパー業界では、地価が下がっている今がチャンスと、自前、あるいは投資家や物流業者と共同で、専用センターを建設する動きが目立ってきています。

その他、目立つ動きとしては、消費者に近いことから湾岸部の冷蔵倉庫に対する需要が増えている、コスト削減のために首都圏(千葉)でも、ビールメーカーの共同配送が始まったことなどが挙げられます。

勝ち組・負け組の明暗くっきり 今後の動向に注目の生活関連業界

●ホームセンター

ホームセンターは、各社ごとに自社配送かアウトソーシングか、戦略が明確に分かれている業界です。近年では一部の企業に売上が集中する傾向にあり、その中で二トリのように自社物流志向が強い企業は、九州で物流用地を購入するなど積極的な動きを見せています。一方、2年ほ

ど前まで積極的だった高級家具を扱う荷主の動きはほとんど見られなくなっています。

●通販

通販業界もまた明暗がはっきり分かれています。個人を対象とした通販、なかでもアマゾンやジャパネットたかたは、売り上げ拡大により積極的に物流施設を展開しています。一方、企業向けの事務系中間資材や消費財を扱う企業は厳しい状況です。もともと通販は業界的に新しく、当初から先進的な物流システムを導入して効率化を進めていたビジネスです。しかも、主だった企業はすでに自社センターを整備したばかりなので、施設移転によりコストダウンするのは難しいでしょう。そのため、対象顧客や取扱商品で結果が大きく分かれることになっています。

また、アマゾンのように、自社のノウハウを利用して他社の通販ビジネスを受託し、自社の物流ラインにのせて配送する子会社を設立するなど、3PL事業化を目指す企業も出てきています。

●医薬品

医薬品における物流の主役は、メーカーではなく卸業界です。卸は5~6年前から統廃合が活発で、現在ではおおむね4グループに集約されました。そのため、各社が持っていた小拠点を統合する大拠点化を進めているのが現在の特徴です。

また、ジェネリック医薬品が成長していること、さらには、昨今のインフルエンザの爆発的な流行でマスクの在庫が欠かせないため、保管スペースが必要との見方から、こうした業界に対して、3PL事業者が積極的に攻勢をかけているという話もよく聞かれます。

●日用雑貨

雑貨類も卸が主役ですが、こちらも医薬品同様に業界再編が終わり、小拠点の統廃合はあと2~3年で完了すると思われる。現在は過渡期であるため、古い拠点の閉鎖費用や大拠点立ち上げによるコスト増や移転時のロスの発生などで厳しい状況にありましたが、統廃合に伴う各種のシステム変更も終え、その後は業績アップが期待できるのではないのでしょうか。

下記テナント募集へのお問い合わせは

シービー・リチャードエリス株式会社

インダストリアル営業本部
TEL.03-5470-8771まで

「貸し倉庫検索」では、
多数の募集登録の中から
貴社にベストマッチの物件を
見つけることができます。

ヤマト

シービー・リチャードエリスがお勧めする
東京近郊・内需型企业向き物流施設



佐倉市

テナント募集 平屋
1780坪 (5884㎡)
即入居可
東関東自動車道 佐倉 I.C. 2.7 km

○所在地：千葉県佐倉市大作○構造：鉄骨造ALC張り○規模：平屋建○用途地域：工業専用地域○敷地面積：11124坪 (36772㎡) ※敷地全体○床形式：低床



流山市

テナント募集 1~5階
ワンフロア **6800坪**
即入居可
常磐自動車道 流山 I.C. 0.3 km

○所在地：千葉県流山市市谷○構造：鉄骨鉄筋コンクリート造○規模：地上5階建○用途地域：市街化調整区域 (営業倉庫・一般貨物運送業の利用可) ○敷地面積：17918坪○前面道路：幅員16m○床形式：プラットホーム○倉庫1階天井高：梁下5m○駐車場：一般車170台、トラック26台



浦安市千鳥

テナント募集 1~5階
2209坪 (7303㎡)
入居日相談
首都高速 浦安 I.C. 2.7 km

○所在地：千葉県浦安市千鳥○構造：鉄骨造○規模：地上5階建○用途地域：準工業地域○敷地面積：1194坪 (3947㎡) ○前面道路：幅員12m ○床形式：プラットホーム○倉庫1階天井高：6m○EV：5t×2基



江戸川区平井

テナント募集 1~4階
1606坪 (5311㎡)
即入居可
首都高速 平井大橋 I.C. 2.0 km

○JR総武線「平井」駅徒歩19分○所在地：東京都江戸川区平井○構造：鉄筋コンクリート造○規模：地上4階建○用途地域：工業地域○前面道路：幅員8m○敷地面積：1066坪 (3524㎡) ○EV：1基



江東区枝川

テナント募集 1~6階
1205坪 (3985㎡)
入居：2010年2月相談
首都高速 枝川 I.C. 0.5 km

○JR京葉線「潮見」駅徒歩7分○所在地：東京都江東区枝川○構造：鉄筋コンクリート造○規模：地上6階建○用途地域：準工業地域○敷地面積：397坪 (1313㎡) ○前面道路：幅員21m (歩道含む) ○床形式：高床○EV：2基



横浜市戸塚

テナント募集 1~4階
1928坪 (6374㎡)
即入居可
横浜新道 川上 I.C. 1.5 km

○JR東海道線「戸塚」駅徒歩23分○所在地：神奈川県横浜市戸塚区秋葉町○構造：鉄筋コンクリート造○規模：地上4階建○用途地域：準工業地域○敷地面積：1173坪 (3876㎡) ○前面道路：幅員8.4m○床形式：プラットホーム○倉庫1階天井高：5.85m○荷物用EV：3t×2基



横浜市鴨居

テナント募集 1~3階
1517坪 (5015㎡)
即入居可

○JR「鴨居」駅徒歩13分○所在地：神奈川県横浜市都筑区池辺町○構造：鉄骨造ALC張り○規模：地上3階建○用途地域：工業地域○敷地面積：1803坪 (5960㎡) ○前面道路：幅員8m○EV：2基



厚木市

テナント募集 1~3階
1164坪 (3849㎡)
12月下旬入居可
東名高速道路 厚木 I.C. 3.5 km

○小田急線「本厚木」駅徒歩12分○所在地：神奈川県厚木市恩名字大井○構造：鉄骨造○規模：地上3階建○用途地域：第二種住居地域○敷地面積：1069坪 (3533㎡) ○前面道路：幅員16m○床形式：プラットホーム○倉庫1階天井高：梁下5.15m

http://www.oj-net.co.jp/warehouse_search/

オフィスジャパンネット 倉庫

検索

倉庫探しは
オフィスジャパンネットの
「貸し倉庫検索」



突然、荷主から
物件提案を打診された
3PLマネージャー様

手持ちの案件がなくても大丈夫。
ネット検索で
24時間スピーディに物件探し！

「首都圏湾岸部特集」や
全国の「推奨物件」ページ
では、写真・パース付で
よりリアルに募集物件が
確認できます。



空き倉庫をお持ちの
オーナー様は、こちらから
物件登録が可能です

内覧会の開催など、
イベント情報も
リアルタイムに発信

弊社が自信を持って
お勧めする推奨物件は、
より詳細な情報を掲載



全国に広がる
自社の営業所再編を任された
物流担当者様

日本全国の物件情報を、
本社にいながらにして簡単チェック！

首都圏のコンテンツは、各県別の
地図検索、高速道路沿線別抽出
と、さらに立地ニーズに即した物
件探しが可能にしました。

物件検索のみならず、エリア別の
賃料相場・市況分析コメントも掲
載。マーケット状況の把握にお役
立ていただけます。



天井高や空調、高床・低床など
施設のスペックにこだわりたい
現場責任者様

大型配送センターから事務所兼倉庫まで、
多種多様な種別の物流施設を
詳細な物件概要で紹介！

各物件、最寄IC・駅、前面
道路の幅員はもちろん、床
仕上、天井高、昇降機、空
調等、多彩な情報を網羅し
ています。

